

耳鼻咽喉科
VILLAGE
医療関係者向け会員制サイト

トップページ

メインメニュー

診断・治療情報
treatment

製品情報
all products

製品取扱ガイド
information

学会情報
society

サポートツール
support tools

お問い合わせ
contact us

内視鏡
開業サポート OPEN

Doctor Interview
全国のご施設へのインタビュー

内視鏡お客様相談センター
0120-41-7149
ヨイナインキョウ
開設時間 8:45~17:30 (弊社営業日)
8:45~15:00 (土曜日)

Doctor Interview
from the scene



耳鼻咽喉科クリニックでの手術的治療においては、レーザー治療が広く普及してきましたが、最近ではさらに治療の幅を広げる機器が登場し、アレルギー性鼻炎や扁桃肥大等の治療に貢献しています。今回はその一つバイポーラ電源装置システム「Celon ENT」（以下Celon）を多くの症例に使用し、患者さん満足度の高い診療を実践している笠井耳鼻咽喉科クリニックをお訪ねし、新しい治療法の実際についてうかがいました。



レーザーとバイポーラ治療で各種疾患の外来手術に対応

笠井耳鼻咽喉科クリニックでは、炭酸ガスレーザー、半導体レーザーによるレーザー治療、及びCoblatorとCelonを使用したバイポーラ凝固治療が行われています。レーザー治療は平成12年より導入し現在までに約5,000例の実績があり、外来診療において日常的に使用されています。同クリニックが開設しているホームページでもレーザー治療についての説明や、患者さんとの質疑応答が細かく掲載され、非常に積極的に取り組まれている姿がうかがえます。このホームページを見た患者さん、また口コミの患者さんが、レーザー治療を目的に来院されるケースも多いといえます。



バイポーラ治療は平成13年より開始。扁桃肥大、慢性扁桃炎、腺窩性扁桃炎、また、いびき治療の補助として軟口蓋や舌根部の肥大縮小等、様々な疾患に適応。Celonは昨年の2月に導入し、以来、アレルギー性鼻炎や肥厚性鼻炎の治療を中心に、月に平均20例ほどに使用されています。



クリニックで頻繁に使用される、レーザー、バイポーラの各種機器類

- サブメニュー
- ▶ CelonENT治療動画
 - ▶ 下鼻甲介治療
 - ▶ 高周波凝固治療

レーザーからCelonへの段階的治療で、鼻閉の改善効果をより確かなものに

レーザー治療とCelonなどのバイポーラ治療を臨床でどのように位置づけ、使い分けているのか、笠井先生にお聞きしました。「鼻閉に対する治療で初めからCelonを使用することはまずありません。まずレーザーによる下鼻甲介粘膜縮小手術を行い、2、3回施術しても十分に改善しないという場合にCelonによる治療へと進むこととなります。」

このような段階的な治療を行うのは、2つの治療法とも低侵襲ではあるものの、比較すればレーザー治療がより簡便であることが理由にあげられます。例えば、初診で訪れた患者さんに対して、診断の後に鼻粘膜への塗布麻酔だけで、レーザー照射を行うことができますが、バイポーラの場合は事前に出血傾向や感染症の有無を調べる血液検査を行い、麻酔も痛みへの十分な配慮から局所麻酔注射が選択されるなど、より入念な準備が必要となります。

いっぽう、治療効果の面から見るとCelonによるバイポーラ凝固治療には大きな意義があると笠井先生はいます。「レーザーは表層的な処置なので、下鼻甲介を収縮させるのには限界があります。その点、バイポーラ凝固治療は針状の電極を粘膜下に刺入して通電し、組織を凝固させますから、より深部からの下鼻甲介減量効果が期待できます。レーザーよりも永続的な効果が得られるといえるでしょう。実際、レーザー治療を受けても鼻閉の改善がいまひとつという患者さんには、Celonによる治療によって十分な治療効果が得られ、たいへん満足していただいています」



レーザー治療では効果が足りない患者さんに Celon（写真下）を使用

睡眠時無呼吸症候群の治療におけるバイポーラ凝固治療

近年注目度の高まっている睡眠時無呼吸症候群の治療にもバイポーラ凝固治療は適応されています。扁桃肥大や肥厚した軟口蓋、口蓋垂を縮小させて咽頭腔を拡げる手術が一般的ですが、笠井耳鼻咽喉科クリニックでは同様の治療に加え、もう一つのユニークな治療にCelonが用いられています。「最近増えているのは、CPAP（経鼻的持続陽圧呼吸療法）を行う患者さんの鼻閉を改善するためのバイポーラ凝固治療です。入院検査ができる施設が増えてきたことで、睡眠時無呼吸症候群と診断される患者さんも多くなりましたが、診断を受けてすぐにCPAPを始めるといったケースもよく見られます。しかし鼻閉があるとCPAPがうまく使えない、高い圧力をかけなければならないという事態を招いてしまいます。そんな症例に対して鼻を通してくださいという依頼がクリニックに舞い込んで来ます。」

こんな患者さんに対しては、Celonによる下鼻甲介の減量手術を施すことで鼻閉を改善し、よりスムーズなCPAPの治療につなげています。このような適応は今後増えてくると笠井先生は見えています。「睡眠時無呼吸症候群の患者さんには鼻の通りの悪い方が相当数含まれていると考えられますので、検査施設が増えれば増えるだけ鼻閉の改善へのニーズは高くなっていくでしょう。できれば検査の段階で鼻も診ていただいて、鼻閉があればまずその治療から始められることが大切だと考えます。」



大人の患者さんが多いのが特徴。この診察室を訪れるのは、周辺で働く方が多い

プローブの細さ、滑らかさがスムーズな手技を助ける

鼻閉に対する手術を中心にCelonを使用されている笠井先生は、その理由についてこんなメリットをあげられました。「Celonはプローブが非常に使いやすいことが利点です。一つは先端が細いので穿

刺がしやすいこと、さらに軸がなめらかな構造でひっきりがかりがありませんので、焼けた組織がこびりつくことはありません。一度引き抜いて再度穿刺する際に、組織をぬぐい取ってきれいにするような手間がかかりませんので、手技がとともスムーズに行えます」

施術者側にとって使いやすく、患者さん側にはより確実な治療効果をもたらすCelonは、今後、耳鼻咽喉科領域での活用が期待されます。現状では患者さんにとって馴染みの薄い治療であることから、どのように啓蒙や説明を行っていくかが重要なポイントであろうと思われませんが、この点に関して、笠井先生はホームページでの情報発信を中心に、積極的なアピールを始められています。



Celon本体とプローブ。プローブの細さがスムーズな手技を助ける

■ バイポーラ凝固治療に関する詳しい説明をホームページに掲載

冒頭でも触れたように、笠井耳鼻咽喉科クリニックでは各種疾患と治療法に関する非常に詳しい情報をホームページから発信しています。そこに設けられた「バイポーラ治療の適応」の項目では、各適応疾患と外来手術の実際、治療効果について解説。術後の経過写真や図が多用され、この治療を初めて知る人にも具体的に理解することができます。

このホームページについて「レーザーにしてもバイポーラにしても、患者さん側にあまり情報のない時期に始めたものですから、当初はメールでの問い合わせが1日に20~30件ほどあったんです。それに対する答えをまとめて、編集したものを掲載しているだけなんですよ」と笠井先生は謙遜されますが、未知の治療に様々な不安と疑問を抱く患者さんにとって、治療費までもきめ細かく開示された情報源はたいへん心強いものに違いありません。

さらに、実際の治療前には治療法や注意点が記載されたパンフレットを用いて説明し、理解を促します。麻酔注射が必要なことや術後2か月程度は痂皮が付着して少し苦しい状態になることなど、バイポーラ治療特有のデメリットについても十分に納得してもらった上で、治療が進められます。このような段階を経て患者さんは、不安感よりもどんな治療が受けられるのかという期待感を大きくして手術に臨まれるのだそうです。



所狭しと貼られた、新聞・雑誌の記事。
笠井先生はメディアでもおなじみの顔だ

最後にこれからのバイポーラ凝固治療の普及について笠井先生にお考えをうかがいました。「レーザー治療に経験を積まれた先生方がレーザーでは少し物足りない、もう少し高い効果が欲しいと感じられる症例に対して、Celonをはじめとするバイポーラ治療は十分な効果をもたらす治療としてたいへん意義のあるものといえるでしょう」



受付

[ページの先頭へ戻る](#)